小学校理科校内研修支援事業（平成30年度）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 支援員学校名 | 職名 | 氏名 | 専門分野 |
| 北海道長万部高等学校 | 教諭 | 吉　田　修　介 | 化学 |

実施報告

長万部町立長万部小学校

＊学級数　11　　＊児童数　193

【ねらい】　小学校第５学年「物のとけ方」の単元において、溶けている物によっては、水溶液を冷やすことにより、溶けている物を取り出すことができる性質を理解して正しく実験を行うことができるよう、ＴＴ指導体制における効果的な指導方法を身に付ける。

【日　時】　11月30日　10:30～12:05

【場　所】　長万部小学校理科室

【参加者】　32名

【内　容】・水溶液から食塩やミョウバンを取り出す実験の工夫





【本事業の成果を活用した授業の改善】

本校では、支援員から学んだことを踏まえ、ＴＴ指導体制において、児童の学習意欲を高め、「実験を効果的に行う工夫」に取り組んだ。

○　水溶液を冷やすと溶けている物を取り出すことができるかを調べる実験

１　指導の工夫

　　・ろ過は初めての作業だったので、児童が一つ一つの作業の進め方や注意点について確実に理解し、作業の効率化や正確さを高めることができるよう、ＴＴ指導体制を活かして各グループへの指導や説明補助等の役割を分担しながら行った。

　　・水溶液の温度を確実に下げるため、氷水に食塩を混ぜるとともに、実験を迅速に行うため、グループ内で事前に役割を分担するよう促した。

　　・本時で行った実験が、中学校や高等学校の学習にもつながることについて説明し、学習意欲を高めた。

２　授業での児童の様子

　　・ろ過の作業を一つずつ丁寧に説明しながら行ったことにより、実験の手順を確実に身に付けさせることができた。また、複数体制で指導することにより、児童が分からなかったり、迷ったりした時には、自分から進んで質問しながら正確に作業を進めることができた。

　　・氷水からビーカーをこまめに取り出して観察することを促したことにより、再結晶の様子を視覚的に捉え、意欲的に実験や観察を進めることができた。

　　・各グループへの指導や説明補助を丁寧に行ったことにより、実験を安全に行うための注意点等について理解を深めさせることができた。